



- 日本蘚苔類学会 -

第51回島根県江津大会 を終えて



江津市苔プロジェクト
推進コーディネーター
おのやま ゆう
小野山 優

第51回島根県江津大会を 開催しました

8月5日から6日にかけて開催された、日本蘚苔類学会の大会は無事に終了しました。

江津市主催の記念トークイベントは、蘚苔類学会としても初の、現地とオンラインのハイブリッド開催となりました。現地会場には市民ら26人、オンラインで52人の学会員にご参加いただきました。

江津苔生産者の会の会長をはじめとする各地のコケ栽培家からは、コケ栽培を始めたきっかけや取り組み内容、コケ栽培に対する想いを聞きました。次に緑化・緑地管理の専門家に、研究者の視点から「3つのレベルの生物多様性の保全」「生物多様性に迫る4つの危機の回避」について話をいただきました。

これからのコケの利活用

地域資源の一つとして、コケを栽培し、活用してきた私たちでしたが、盗掘での自然破壊の問題だけでなく、生態系の観点からも、守るべきルールや、考えなければならぬことがあると学びました。

そして江津市のコケプロジェクトを通して、コケを親しむ人たちにも、これからのコケの利活用について考えてもらえたらと思います。

コケの生きる歴史

江津市の公園や広場は、毎年草刈りを行い管理をしています。その土地に生えるコケは、草刈りによって粉碎され、粉碎された一つ一つの葉が種となり、次の年にはまた豊かなコケのじゅうたんを作るようです。人の手で管理されている場所を好むコケも多くあります。土地の成り立ち、他の生き物との関係性をみてみると、そのコケの歴史を感じることができて、面白いですね。



①



②



③

- ① 記念トークイベントの始めに、中村市長があいさつをしました。
- ② イベント終盤の質疑応答の時間では、現地とオンラインの参加者が、意見交換を行いました。
- ③ 会場には 52KOKEPROJECT に関わる人たちが制作した、コケグッズの展示もありました。